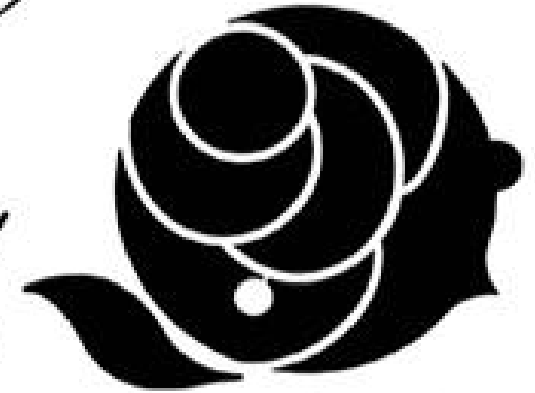


Rosa Plumula

ローザ・プラムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター No21

目 次

巻頭言	1
T時代の教養教育	2 ~ 3
キャンパス情報	4 ~ 7
- 各学部から -	
開いて欲しい私の意見	8 ~ 10
- 大学 夢と現実 -	
V o i c e	11 ~ 13
- 期末対策うらとおもて -	
教養教育古今東西	14
- フランスの大学 -	
掲示板コーナー	15

(平成 13 年 7 月発行)

新聞，雑誌，書簿，ラジオ，テレビ，インターネット・・・と我々の身のまわりには，情報が氾濫している。これらの情報の洪水の中から，自分に役立つ情報を探し当てることでさえも容易ではない時代である。このような，情報氾濫の時代において我々は，情報の表面的な利用に満足しがちである。いわゆる“マニュアル人間”の登場である。もしも問題がこの場合なら（if），そのときは（then）このように答えるといったような，if - then ルールのたくさんのマニュアルを用意して目の前の問題にこれをあてはめようとする。うまくあてはまらないと，この問題の解決を簡単にあきらめてしまうという具合になりがちである。今ある情報を単に組み合わせるだけでは，真の解決もあり得ないし，又，真の創造は生まれないと思われる。芭蕉は俳句に関して「もの二つ三つ組み合わせるにせず，“黄金”を打ちのべたるようにてありたし」と言ったと伝えられている。分厚い本の中味が手のひらに乗るような気持ちになるまで読み込む，そうすると，その本の内容が，自分のものになる。これは本の内容の左脳による理解を超え，右脳によってメロディーとして蓄えるということであろう。さて，もうすぐ夏休み，この自由時間を大切に使うて“創造的人間”をめざして，価値ある本をじっくり読み，考え，その内容を真に自分のものにして，源泉としての“黄金”をつくるようにしてみたいかがでしょうか。

（工学部長 安久 正紘）

I T 時 代 の 教 養 教 育

大学教育研究開発センター
副センター長（実施調整部長）
曾 我 日出夫

現代はもうすでにI T時代に入っている。I TとはInformation Technologyのことである。一昔前には信じられなかったような携帯電話を多くの人を持っている。大学でもさまざまな連絡がEメールで行われるようになってきている。インターネットからは、以前ならなかなか集められなかったような情報を瞬時に引き出すことができる。買い物までもインターネットでできるようになってきている。今後、ますますI Tを利用するようになっていくだろうし、利用が当たり前になっていくであろう。

さて、I T時代になってぼくらはどれだけいい思いができるようになったのだろうか。天の邪鬼の私は、いささか批判的な思いでI T時代をながめている。まず、情報過多である。次から次へと新しい情報がきて、何かをじっくり味わおうという気持ちを起こさせないムードである。本当のよさというものは、じっくり味わって初めて分かるものではないか、とあえて反発してみたい。また、きれいな映像とともに流れてくる情報をみていると、何となくそのままそれを信じてしまいがちである。が、よくみると、随分いいかげんなものも少なくない。そもそも、自分にとって意味ある情報や知識とは、多少なりとも自分で試行錯誤し納得したものに限られるのではないか。大して意味のない情報を、ましてや本当かどうか疑わしい情報をいくら取り込んでも忙しい思いをするだけではないか。

こんな私の思いとは逆に、ますますI T化は進む一方である。けれども、自分の自主性を保ち、自由人として生きたいと願う人はきっと私の思いに共感してくれるだろう。私の目指す「I T時代の教養教育」とは、こういう情報過多の世の中にあっても、自主性を保ち、自由人として生きていけるための基礎教育である。もちろん、車社会では、車の運転技術を修得しておかなくてはならないように、I T時代の世間では、I Tに対する常識と利用技術を一応修得しておかなくてはならないだろう。しかし、そういうことは特に強調しなくても、自然と実行されていくだろう。私が言いたい内容は、こういう時代だからこそ必要となってくる「時流に流されないための心構えや考え方」のようなものである。

これからの時代はそれこそガラクタのような情報も一杯くる訳であるから、何よりも、たくさんの情報から自分にとって意味のあるものとそうでないものとを識別する能力が必要だろう。それは、要するに、ものごとの価値判断を自分で下せるようになることである。言い換えると、いろいろな情報に重要度の差を付けられるということである。実は、これは

なかなか難しいことで、まず、何をいいと思うかが定まっていなくてはならない。おおげさに言えば、何を幸せと思うかがはっきりしていないといけないのである。これからの時代では、自分でも何がいいのか分からないまま、情報の洪水に流されてしまいがちである。そうならないためには、情報を自分で取捨選択できなくてはならない。

ということで、各人は意識して自分の幸せ観の確立に努力しなくてはならない。その手助けすることが、「教養教育」の一つの柱になるべきだと私は考えている。何を幸せに思うかは人間の数だけあるように思えるし、ある面ではそれは正しい。しかし、自由人にとっては、「幸せとは味わいながら自分なりに何かを造ってみること」だという点で共通したものとも言える。「自分なりに何かを造ってみること」は苦勞を伴うことであり、同時に楽しいことでもある。あまりにたくさんの情報にさらされると、こういうことの大切さに気が付かなくなってくるように思える。だからこそ、「IT時代の教養教育」は、各人の落ち着いた幸せづくりの手助けであるべきだと思うのだ。そして、それは時代を越えた内容をもつものだと思う。こんな風な方向に教養教育を充実できたらなあと思っている。

キャンパス情報 各学部から

人文学部から

一昔前だったら7月は期末ではなく、たとえ暑くても最初の2週間で我慢すれば、後は楽しい夏休みが待っていました。今は7月末が期末試験で、文字通り汗をたっぷりかかなければなりません。前学期最後の仕上げですからしっかり頑張ってください。

ところで昔の大学は自己完結型で、学生に提供するメニューをほとんどすべて自前で用意し、他のものは認めていませんでした。今はかなりオープンになっています。英語やフランス語の検定資格が外国語の単位に認定されていることはご存じの通りですが、人文学部ではさらに漢字検定の資格も専門科目として認定しています。

大学自身の提供する科目も学びの場は大学の外へと広がっています。カナダのマギル大学では英語の、中国の斬江大学では中国語の集中講座が開講されています。

学外の実習としてはすでに教職を目指す人の教育実習や学芸員資格を取得するための博物館実習がおなじみですが、人文学部では昨年度からインターンシップも導入しています。この新規科目に計11名の2、3年生が参加し、新聞社や企業および各種団体の仕事の現場で実務の一部を直接体験しました。

このように学びの場は広がり続けています。それと同時に学習にはそれまで身につけたものを自分の力で総合することが今まで以上に求められています。キャンパス内で汗を流して学んだことがそのときにきっとみなさんを支えてくれることでしょう。

(人文学部 教務委員長 佐藤 和夫)

教育学部から

爽やかな春の陽射しの下に始まった新学期もあっというまに半ばを過ぎて、うっとうしい梅雨空の広がる毎日になりました。1年生の皆さんは水戸の街にもなれて、茨大での生活をエンジョイしていることと思います。今回は、この4月に教育学部に新設された大学院学校臨床心理専攻についてのニュースをお届けしましょう。

近年、教育現場においては、いじめや不登校、学級崩壊などの深刻な問題が起きています。それらを解決するには、個々の事例を正しく把握すると共に、その背後に潜む本質を深く理解して効果的に対処することが不可欠です。新専攻は、そ

のための専門的な知識や技術を学び、教育臨床上のさまざまな問題に適切に対処し得る高度な理論と実践能力を備えた専門家を育成するために、全国の教育系大学・学部の中でも5番目に設置されました。学校臨床基礎研究分野と学校臨床実践研究分野の2つの授業分野からなり、13名の教員が、カウンセリング特論、精神医学特論、学校臨床心理学特論など、それぞれの専門分野から特色ある授業を展開しています。11名の新入学生も勉学や研究に大きな希望をもって取り組んでいます。なお、4月に行われた募集には定員9名に74名が出願するなど、極めて高い関心呼びました。

この専攻の特色の一つは、教育学研究科では初めて、現職教員などの社会人学生向けに夜間授業を開講していることです。また、教育総合実践センターに併設された教育相談室において、不登校、家庭内暴力、知的・情緒的障害などについての相談やカウンセリングも行っています。

現在、本専攻を修了後、1年以上の臨床経験を経た上で、臨床心理士の受験資格を得られるよう、指定校になるための申請準備を進めています。日本の社会がかかえる深刻な問題を解決するために、皆さんも卒業後この専攻で学んでみませんか。

(教育学部 数務委員長 山根 爽一)

理 学 部 か ら

理学部のカリキュラムは平成13年度から大幅に変更された。高等学校での教育との接続をつけるために専門基礎科目を増やしたことや、年間の履修申告単位数の上限を勧告し、授業を4年間にわたってバランスよく履修するよう指導していることなどである。前者の措置に関連して、教養科目の一部(分野別科目の自然系)を専門基礎科目に移したため、教養科目の卒業に必要な単位数は減った。これに対して、理学部は専門科目を重くみて、教養科目を軽視しているのではないかと、とする批判的意見がある。これに対して、カリキュラム改革の意図を繰り返し主張しているのであるが、再度、ここに示しておきたい。つまりそれは高校との連続性を考慮したことと、専門に関する基礎的科目を一つの範疇にまとめることで学部全体のカリキュラムをわかりやすくしたことの二点にある。同時に、教養科目は他学部、つまり、理学部とはことなる学問分野の基礎的科目であると位置付けたことも意味している。しかしながら、幾つかの課題も残されている。たとえば、主題別ゼミナールは同じ学部の教官が担当しているので教養科目としては矛盾していることになる。より重要なことは、この新しいカリキュラムが高校との接続性を真に保証しえているのか、理学部は他学部の教養科目に対して責任を持って担当しきれているのかであって、これらの点はこれから慎重に追跡しあるいは検討を加えていかなければならないであろう。

(理学部 教務委員長 森野 浩)

工 学 部 か ら

Changing is a source of development

Professor : “ Why do you change it? It's still working. ”

Student : “ A new thing is always better than the old. ”

Professor : “ But, You Can't teach an old dog new tricks. ”

Student : “ You must first change yourself ! ”

小澤@数理感性工学講座・理工学研究科・茨城大学・ac.jp です。バーチャルな工学部キャンパスから聞こえてくるバーチャルな会話をお届けします。バーチャルの中にも真理が存在するのでしょうか？

P : 日本の景気が悪くなって、国民全体で自信喪失気味だね。ひところ “ Japan as number one ” なんていったのが夢のようだよ。

O : でも、これは予想されていたことですよ。米国では、クリントンがITに国の運命をかけて、Top が強力な指導力を発揮したのに対し、当時の日本の首相は「自動車産業に続く新しい産業が育ってこない」などと、ただ、ぼやいていましたからね。

P : ITでは韓国にもおくれをとったようだよ。情報産業の分野では「おくれ」は致命的な場合が多いから、大変だね。

O : 確かにマーケットがからむ問題は、「おくれ」は深刻だけど。ITでも教育とか文化に関係したことは、じっくり腰をすえて対応しても大丈夫だと思う。そして、間違わないことが大切だと思う。

P : 君にしては、ずいぶん conservative ないい方だね。

O : 私はいつも aggressive ですよ。「間違わない」ということは、「何もしなければ間違わない」という意味ではありませんから。この変化の激しい時代に「何もしない」ことは間違いを犯すことになるといっているのです。

O : 問題は、どうしたら間違わないかです。その答えは、「常に試みる」ことだと思います。偏見にとらわれず何でもやってみて、よいものを採用し、よくないものは改良すればよいということです。

新しいものの中のみ、未来を切り開く手段や方法が見つかります。

P : 「バーチャル統合キャンパス構想プロジェクト」、「工学基礎ミニマムプロジェクト」、「イノベーションルームのある新棟設置準備プロジェクト」など、将来が期待できそうなプロジェクトがたくさん動いているから、工学部は急速に変わりそうだね。

(大学院理工学研究科教授 総合情報処理センター長 小澤 哲)

農 学 部 か ら

1年生の皆さん，入学されて3ヶ月がたちました。大学生活は如何ですか。期末試験に備えて頑張っておられることと思います。来年の4月に皆さんを迎える阿見キャンパスは今，芝生と木々の緑が非常に美しい季節です。

阿見キャンパスに新しい建物が二つ出来ました。一つは，茨城大学共同利用施設である遺伝子実験施設です。C-mailに遺伝子実験施設の教官である安西先生の「私の研究ノート」が紹介されましたので，ご覧になった方もいることでしょう。4階建てのユニークな建物です。先端的な機器類が整備され，あらゆる遺伝子に関する実験に対応できるようになっています。この6月より共同利用が開始されました。茨城大学生でしたら誰でもここで実験することが出来ます。もう一つは昨年12月に茨城大学50周年記念事業の一環である同窓会館（霞光荘）が，同窓会の尽力で完成しました。2階建てで1階にはホール，2階には宿泊施設と同窓会事務室があります。ホールでは外国からのお客様のwelcome partyや研究室のコンパなどがよく開かれています。隣接する植物園にはバーベキュー施設がありますので，今後ますます利用されることと思います。宿泊施設はシングルルーム3室，ツインルーム1室からなり，非常勤講師の先生方や共同研究で来られた方々にもよく利用されています。勿論同窓生の皆さんも宿泊ができます。農学部の皆さんは勿論，他学部の皆さんも是非一度阿見キャンパスを訪れてみて下さい。

（農学部教務委員長 白井 誠）

聞いて欲しい私の意見 大学 夢と現実

庄司 望（人文学部1年）

それは金曜の5限であった……金曜の5限目である。明日から週末だ！という気持ちに後ろ髪を引かれながらとった金曜の5限目。まあ、面白そうだったから仕方がない。大学での勉強とはそういうものだ… と思っている。講義が始まるまでは帰りたい衝動に駆られるのだが、講義は案の定面白い。いつも最前列中央に座る。ある日、いつものように指定席に座った僕と目が合った教授は、僕に何かの原稿を依頼した。僕に頼んだ理由は……「君…、活発そうだから。」…意味不明である。その原稿の内容は「大学、夢と現実」であった。夢と……げん……現実！？（おいおい、こっちは長く暗い受験戦争に辛くも勝利し、感極まる民衆の中を万感の思いで凱旋の行進をしてからまだ数ヶ月なのだぞ！それなのに現実を見るというのか現実を？もう少しの間僕らに夢を…！）…などと考えながら快く引き受けてしまった。

さあ、「夢と現実」である。「高校まではサボっても先生が注意してくれましたが、大学は自由な所なので欠席しても誰も注意してくれません。それだけ責任が重いと感じました」……ノーベル文学賞をとりそうな友達に開いたらこう書けと言っていた。仮に僕にもそのような文才があれば上記のような文章が書けるのだろうが、ここはやはり自分の言葉で書くことにしよう。

茨大は真面目だ！これが僕が直面した現実だ。何やら頭の良さそうな眼鏡と、教科書や辞書が沢山入りそうな鞆を抱え、
難しいことを考えてそうな顔をした生物に遭遇することは日常茶飯事

である。その割に授業では無口である。口論する気もないらしい。受け売りの勉強、受け売りの人生を送ってきたことの影響なのか、消極的である。しかし、これからはもう別冊の解答集もなければマークシートで全てが決まる訳でもないのだ。僕はもっと「アツいやツら」と話がしたい。内容は何でもいい。政治でも経済でも物理でも哲学でも音楽でも……それで自分を成長させたいのだ。茨大に眠るそんなヤツら、どこかでお会いできますように。

林 洋行（理学部1年）

実際に大学に入学してみて、授業を受けてみて思ったことは、本当に何でもかんでも自分で決めて実行するということが多かった。それは決して、自分で受講する講義を選んだり、受けたりするといったものではなく、大学生活をどう過ごして

いくかを決めるという意味である。大学生活がいかに短く，そして何をすべきかということに関して，私達はあまりに無知である。つまり，様々な情報に基づいて自分たちがどう取り組んでいくか決めていかなければならないのに，必要なはずの情報があまりにも少ないために，何もわからないまま過ごしているというのが現状だ。

例をあげてみると，もし理系のある学生が研究職につくことを望んでいて，早い段階から大学院への進学を考えていたとしよう。そういう場合，彼は自分の得意であったり興味を持っていたり必要だと思われる教科は受講し，しっかりと学んでいったとしよう。それで次へのステップのための準備が整っているかということとそうではない。理系の学生なら理科や数学を，文系の学生なら社会学等々にはげむ事は当然のことなのだ。皆が好きなことばかり取り組んでいて，最終的に差がついてしまうのは，やはりそれ以外の分野であろう。理系の学生でも，研究者という道まで考えているのならば法律や経済学は必ず必要である。

こういったように，好きなことにばかり目を向けてはいけないということは明らかだ。なのに，それ以前の問題であるが，何も目的を持たずに大学生活を過ごしている人が数多くいるという現実。

大学で目的を見つけようとしている人も数多くいると思うが，見つからず何となく大学生活が終了してしまうという恐ろしい結果もまっている。

色々な事に関してひたむきに努力することは非常に大事なことであるのだが，何も知らずにいるよりは様々な情報を取り入れ，それを行動に反映させる方がよい結果につながる場合の方が多いだろう。だから，目的や計画を立てて大学生活を営むということができるだけ多くの人に実行してもらいたいと思う。

高橋 彩子（工学部1年）

6月4日，月曜日。地獄の専門科目の授業中。先生に名前を呼ばれ，何かとびくついたら，この原稿の執筆依頼だった。折りしも，その授業の試験（口頭試問）でかなりの精神的ダメージを受けた日だ。実はその時，“何で私が”と強く思っていた。なぜなら，上でも触れたように，やっと，その日受けられる分の口頭試問を受けたのだが，まだまだやるべき課題は沢山残っていて，そんなものを書いている余裕が全くないのは，その場でわかっていたからだ。しかし……結局断れなかったもので，この際，正直に書いてしまおうと思う。そうなると，ここからは単なる愚痴にしかならないので，興味のない人は読まないほうが良いと思う。高校の頃，大学生に対してもっていたイメージは，“暇そう”だった。だが，現実とは全く違った。一言で言えば，とにかく忙しい。常に課題が重くのしかかっている。そして授業は屈辱的に解らない，ついてゆけない。特に専門科目だ。月曜日の専門科目の授業の後には，皆で落ち込んで帰る。数少ない同じ学科の女子の間

で、よく交される会話として“泣きそう”というのがあるのだが、このセリフが私たちの辛さを最もよく表している。すべきことは沢山あるのに、解らなすぎて、軽いパニックに陥ったりするのだ。そんな極限状態を、少しずつ乗り越えて今があるわけだが、乗り越えるためには、自分との戦いに勝たなければならない。課題が辛くて投げ出したくなっても、ここで投げ出したら、後でもっと辛くなるというのはわかりきっているので、それを自分に言い聞かせて戦うのだ。これに負け続けると、墮落の道を進むことになる。しかし、偉そうなことを書いているわりに、実際の勝率はかなり低いのだが、墮落の道へは入っていないので、ちょこちょこ勝って頑張っているらしい。まだ、試験も経験していないし、前学期も終わっていない状態で、この先どうなるかわからない。しかし今、かなり充実していることは確かだと思う。

鈴木 克俊（農学部1年）

大学、夢と現実。ということなので先ず自分の夢について話しておこう。私は、農作物の屋内生産における環境調節について興味を持っている。その理由として、予想される人口爆発とそれに伴う食糧不足を解消する為の農作物増産法を検討し、新しい農業スタイルを考案すること、が挙げられる。これは、現在有効に利用されていない砂地や荒地でもできる農業として、太陽光発電等のクリーンエネルギーを利用した完全屋内型農業の存在を知った為だ。この方法は現在の技術では、赤字を出してしまうそうだが、天候の影響を全く受けず人間にとって必要な時期に適量の農産物が供給できる。又、この施設で出た有機廃棄物をバイオマスとして利用すれば、循環型農業のモデルにも基づいているし、宇宙での食糧生産にも利用できる。その為の環境調節に興味を持ったのだ。そして農業技術の延長として植物を相手にすることになるので、農学部地域環境科学科に入って勉強しようというわけだ。

ところで、上に書いたような現実味のうすい夢を持って大学に入学したのだが現実は大いぶ違う？ようだ。先ず思った事があり農学部は一年次のみ水戸で講義を受けている。そのため教養科目が極めて多く、専門基礎や実験がほとんどない。本音で話すと、自分が農学部生なのか生物好きの教養学部生なのか分からなくなりかけている。そしてもう一つ、これは未修外国語についてだ。国際化が進む現在、英語だけではもうやって行けない時代が来るだろう。そこで我が茨城大学では、仏独露西中韓の6種類の言語が農学部向けに開講されている。私はスペイン語を履修しているが、やはり自分の使いたい言語を実践で役立つように勉強したいと思う。やはりエスペラント語やスワヒリ語、トルコ語やアラビア語そしてラテン語も前述の6言語に加えて履修できるようにしてもらいたいものだ。独習には限界があるし知りたいことも山程あるので。そして最後に本音中の本音。農学部の教養は阿見で履修できる様にしたらより便利だと思う。立派なキャンパスがあるのだから。

吉田 隆洋（人文学部3年）

そろそろ前期末のテスト期間が近づき、そわそわし始める頃です。3年次になった今でも、嫌なものです。わかったつもりになっていても、解答用紙に書いているうちに、まとまらずによくわからない答案になってしまうこともしばしばです。

大学の勉強は、高校までと違い、暗記だけでは対応できません。その暗記すらも必死こいてやっていた私にとっては、大学の勉強はつらいことの連続のように思えます。専門科目しかやっていない今思うと、教養の授業のテストの方がやりやすかったように感じます。どの授業をとるかにもよりますが、私がとった授業は、もちろん自分に興味のあることでしたし、楽なものもありました。ところが、専門科目は、授業に追いついていくだけで大変という気がして、つらい授業もとらなければなりません。まして、そのような授業のテスト対策は大変です。

それでもめげずに、授業で聞いたことを最大限に活かし、自分の考えにして覚えていくなど、テスト期間でなくても、予習復習をし、参考文献として出された本を読み、日頃の授業を大切にしていくなどなどすることが、本当の期末テスト対策なのでしょう。よくわかりませんが多分このような感じでいいのだと思います。

私のように、このようなまっとうな大学生ではない人は、たまに授業に出られないこともあり、参考文献もほとんど読んだことありません。そこで重要になるのが、自分が出ていない回に出ていた友達を探すことです。ノート・プリントを借り、先生は何か特別なことを言っていなかったかなどを開いて、出ていない分を補い合っていかなければなりません。私達は、期末対策として、勉強もさることながら、友達とのつきあいも重要視していくことが、大きな対策の一つとなっていることは否めません。こうして考えると、私はうら側の人間なのかと心を痛めています。

権田 まり子（理学部3年）

この欄を受け持つに当り、今までの4回の試験を振り返ってみました。お役に立つかは分かりませんが、その経験をもとに述べていきたいと思います。

まず前提として、受験可能な出席日数を満たす事が挙げられます。どんなに試験が簡単でも受けられなければ意味があ

りません。病欠など止むを得ない場合を除き，なるべく出席するようにしましょう。

次に必要なのは計画性です。試験は基本的に1週間で行われます。つまり普段の時間割通りに日程が組まれるわけです。当然1日に多数の試験が重なるという事も起り得ます。出題範囲が発表されるのは大抵1～2週間前なので，自分にとってどの教科が最も優先されるべきかをよく考え，計画的に学習する事が不可欠です。普段から常に復習する習慣をつけておけば，直前になって慌てる事はありません。

さて，ここまでは所謂“おもて”の面を述べて来ました。それが出来れば苦労しないさと思った方が大半ではないでしょうか？これは理想です。理想と現実とは異なるものです。ここからは期末対策の現実，“うら”の面を述べたいと思います。

結論から言うと，試験において最も重要なのは良い人間関係です。休んだ時にノートを見せて貰える友人であり，過去問を教えて貰える先輩です。

例えばノート持込可という場合，休んで抜けてしまった部分は致命的です。私自身，休んだ日の内容が出題され涙を呑んだ事が何回かあります。

毎年同じ出題をする教官方もいらっしゃいます。この場合，過去問さえ押さえておけば何とかなるでしょう。サークルや講義で知り合った先輩などに頼んでみて下さい。先輩方も過去問取得経験者でしょうから，きっと快く教えて下さるはずです。但し急に出题傾向が変わる危険がある事をお忘れなく。

あと1ヶ月程で期末試験が始まります。コツコツおもて型の方は復習を，1夜漬け，軽く朝漬け当り前のうら型の方は交友関係を広げる事を精一杯頑張りましょう。

木付 和徳（農学部2年）

期末試験。それは輝かしいキャンパスライフに訪れる年に2回の影の季節。徹夜をする者，コピー機に張り付く者，図書館の主と化する者，サークル棟で夢の時間を過ごす者…。多種多様な人々が構内に突如出現し，大学の違う一面が垣間見られてしまう時です。私はそんな試験を1年次の皆さんより2回だけ多く経験しております。その少ない経験からのアドバイスがわずかでも役立てば幸いです。

まず，「おもて」から行きましょう。「毎日確実に出席&ノートを取り，それを元に一講義につき10時間は勉強する」はい。これ以上書くことはありません。お気付きかと思いますが，すでに{毎日確実に出席&ノートを取り}この部分に修復不可能な事態が生じていますね。そこで登場するのが「うら」です。

では，「うら」行ってみましょう。ここで紹介するのは不正行為の類ではなくて，賢いやり方の一部です。まずレポート

が出たら、その日のうちに図書館で本を確保して下さい。特に大人数の講義をとっている場合は関連図書がすぐに消えうせませす。コピーすら取れなくなります。他の人も使いますから早めに返すか図書館内で済ましたほうがいいでしょう。次に同じ授業を取っている友達から自分が休んだ時のノートとプリントを借ります。時間に余裕があればノートを書き写すことをお勧めします。コピーだと記憶に残りにくいですし、それだけでやったつもりになってしまいます。さらに過去問を入手しましょう。これが一番効果的です。サークルの同じ学部の先輩ならば、以前に同じ授業を受けていることが多いです。もし受けていなくても先輩の友達には確実にいます。傾向だけでも開いてもらえるように頼み込んでみましょう。サークルに入っていない人は友達から情報を集めるだけでもずいぶん違います。こうすれば試験を乗り切れるはずですよ。後は急がしい中でどれだけ時間を作れるかです。最後に一言。「当日の朝は友達とメールを送り合いました。」

フランスの大学における教養教育

稲葉 奈々子（人文学部）

80年代以降の大学改革のなかで、フランスの大学教育が「商品化」される傾向が強まってきた。とはいえ、「ユニベルシテ」とよばれる国立大学は年間の登録料1万円弱の支払い義務はあるが、基本的に授業料は無料である。問題は、「ユニベルシテ」といわれるエリート養成学校である「グランド・エコール」の格差にある。「グランド・エコール」は私立の場合は学費が高く、国立の場合入学は超難関であり、いずれにしても狭き門となっている。そしてユニベルシテとグランド・エコールの格差はそのまま、卒業後の就職や収入の格差となって歴然として継続する。

さて、ユニベルシテでの教養教育であるが、大学教育の「商品化」によって、「売れない」学問領域の切り捨てがはじまった。人文系の学問では哲学や文学などが、まず切り捨ての対象となった。哲学科はここ数年で次々と廃止されている。それに対して経済学や法学など就職後の実務に結びつく学問が、売れる「商品」となっている。

フランスは学問領域においてヨーロッパでもマルクス主義の影響がもっとも強かった国といわれる。しかし経済学のなかで「売れる商品」も確実に近年の位相を反映しており、80年代後半の西欧の規制緩和や自由主義経済を裏付けてきた経済学が広く受け入れられている。

90年代末になると、こうした状況に対してユニベルシテの学生が「反逆」を起こした。同じく経済学を学んでいても、グランド・エコールと比較するとユニベルシテの学生の就職率は圧倒的に低い。就職できない学生とは、いわば市場経済の自由競争の売れ残りである。したがって自由主義経済を標榜する経済学がユニベルシテの学生に説得力がないのは当然のことである。彼らは教養教育における経済学の内容の選択の自由を求めて運動を起こした。市場経済至上主義的思考様式を運命論的に甘受するのではなく、むしろこうした状況を市民が抑制し管理できるような経済学を学びたいという学生たちの主張が大きくなうねりとなって広がりつつある。

掲 示 板 コ ー ナ ー

電子掲示板の利用について

今年度から，共通教育棟に設置した電子掲示板により，休講・教室の変更・集中講義及び大学の行事等を周知しております。なお，当分の間，学生の呼び出しや試験等については，従来どおり屋外の掲示板等によりお知らせしますので注意してください。

掲示板を見ないことにより，所定の期日までに手続きなどができず，不利な取り扱いを受けることもあります。登校，下校，授業の合間には従来の掲示板と電子掲示板の両方の掲示に注意して下さい。

- 毎 日 3 回 は 見 ま し ょ う -

自転車の駐輪について

自転車の駐輪に際しては，歩行者及び車輛等の通行に特に支障をきたしておりますので，定められた場所に駐輪してください。特に道路上の駐輪については，事故の起こる可能性が非常に大きくなっています。指定された駐輪場に，他の人に迷惑のかからないように駐輪してください。

学生諸君のご協力をよろしくお願いします。

携帯電話の使用について

講義棟内や公共の場では，携帯電話の電源を切っておくか，マナーモードに設定しておくようにしてください。学生諸君のご協力をよろしくお願いします。

つ　ぶ　や　き

大学教育研究開発センターの「ローザ・ブルムラ」ニュースレター第21号をお届けいたします。7月の暑いなか前期末対策の時期を迎え、特に1年次生にとっては何もかも初めてのことばかりで、不安と期待の、同時に束縛の重苦しさや開放への渴望の錯綜する複雑な時期かと思われれます。編集部といたしましても、そんな学生諸君にとってせめてもの清涼剤になればという思いをこめて、冊子の色を従来の萌黄色から爽やかな水色に変えてみました。これを転機に、創刊当初の＜1年次学生と教職員を念頭においたセンターからの情報発信のチャンネル誌＞を目指すことを再確認し、＜読みやすい、読んでおもしろい、役に立つ情報も含まれている＞ということに留意しながらも柔軟かつしたたかに誌面の刷新を図っていきたいと考えております。今回も1年次生を中心に数名の学生諸君に寄稿していただきましたが、今後とも学生諸君や教職員の方々にも遠慮なく寄稿していただきたいものと願っております。

(笹倉)

発行日 平成 13 年 7 月

発行者 茨城大学 大学教育研究開発センター
水戸市文京 2 - 1 - 1
029 (228) 8416 (学生課教養教育係)